



for a living planet®

CANJポズナニ会議報告会

「次期枠組み交渉について」

2009年1月9日

WWFジャパン 気候変動プログラム

小西雅子

konishi@wwf.or.jp



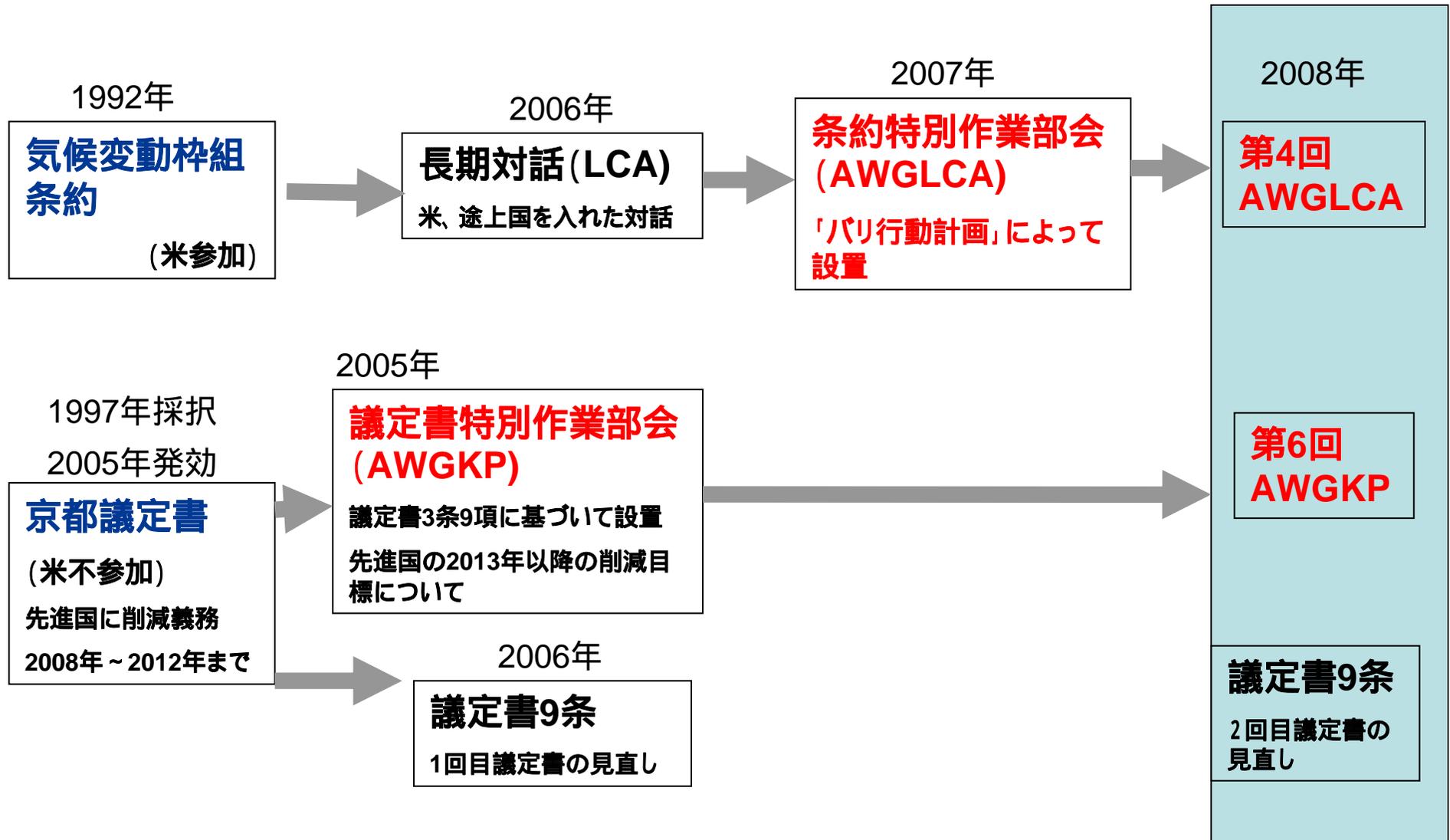


ポズナニ会議の位置づけ

- 温暖化国際交渉の焦点: 2013年以降の次期枠組みについて
 - 京都議定書第一約束期間(2008年～2012年)後は、まだ決まっていないため、その後の枠組みの話し合いが、今の国際交渉の焦点
 - 京都議定書の際は、1997年の採択後、詳細ルールが決まったのが2001年、発効は2005年と7年も要した。今回は交渉時間が圧倒的に少ない
 - ポイント: 議定書不参加のアメリカの参加
排出急増中のインド、中国など主要途上国の削減行動
 - 2020年の中期目標が焦点



次期枠組み交渉のために、特別に設置された議論の場: 二つの特別作業部会 (AWG)





ポズナニ会議に期待されたこと

- 議定書AWGにおいて、先進国全体の削減幅に合意すること
- コペンハーゲン合意に向け、残り1年間となる交渉の具体的な作業計画を作成すること、
- 二つのAWGで、アイデアを議論する段階から、交渉する段階へと移行できる具体的な交渉テキストに落とし込んでいくこと。
- 温暖化が危険な閾値である2度を大きく下回るようにするために必要な長期の排出削減ビジョンに対して、各国の共通理解が進み、先進国全体の中期の排出削減目標の範囲について科学に基づいた共有化が図られること





条約AWG報告

- 「長期目標を含む共有すべきビジョン」のワークショップ開催
(条約AWG5つの重要項目: 共有ビジョン、緩和(削減)、適応、技術移転、資金)
 - 日本の洞爺湖サミット2050年半減目標は、受け入れられず
 - 先進国: 2020年目標発表なしで、途上国の削減行動を強く主張して対立
 - 途上国: 途上国の適応、技術移転へのサポートの仕組みの議論を
- 緩和のコンタクトグループ
 - 途上国の削減行動提案: 南アフリカ、韓国、アルゼンチンなど
 - 議論の集約をはかる議長
- ポズナニ会議前に用意された編纂文書(アセンブリーペーパー)にさらに各国提案を加え、**新アセンブリーペーパー(121ページ)**がリリース
- **2009年作業計画決まる**
 - 新アセンブリーペーパーに、さらに各国提案、次期会合(3月)までに、議長が、議論を集約した下文書を作成
 - 下文書を下にも、6月会合までに、議長は交渉用のドラフトテキストを作成する





議定書AWG

- 先進国の次期目標を決めるための議定書AWGでは、まず京都メカニズムや吸収源などの達成手段を決めてから、ポズナニ会議で、先進国全体の削減幅に合意することになっていた。
 - ポズナニまで8回行われた議定書AWGでも、手段について、膨大なリストを作っただけで、合意には至らず
 - 先進国全体の削減幅

2007年末のバリ行動計画：「IPCCによる先進国全体で2020年に25%から40%の削減(90年比)が必要であることを認識する」

1. ポズナニ一週目最後の議長提案：「IPCCによる先進国全体で2020年に25%から40%の削減(90年比)が必要であることを踏まえるべきである」
2. ポズナニ2週目最初：段落全部落ちる？
3. ポズナニ最終：「IPCCによる先進国全体で2020年に25%から40%の削減(90年比)が必要であることを認識する」

結局、バリ行動計画と全く同じ表現 全く進展なし





議定書AWG

- 2009年の作業計画

ポズナニ会合における最も成果を上げるべき事項

- 各国別の目標提出時期：
 1. 3月の次期会合にて提出する
 2. 3月の次期会合にて提出することをまねく 逃げ道
- 3月、6月、8月に会合、(10月にも?)
- 6月会合で、改定を含む交渉テキストのドラフトを作るべく、各国からの提案締め切り、議長に交渉テキストを準備する指令が明確



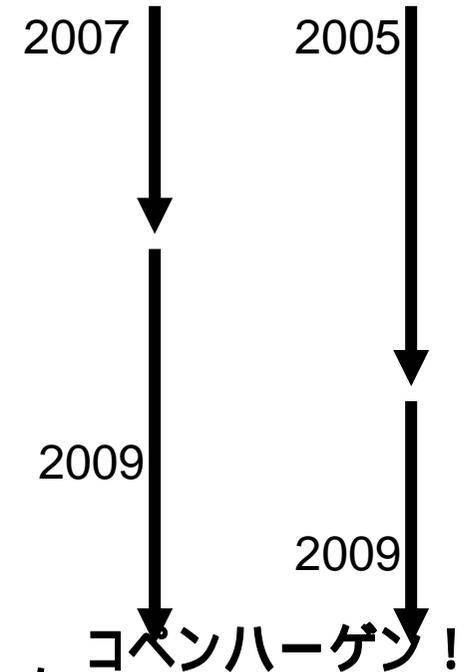


2009年作業計画

国際交渉

- アイデアを出す段階
- アイデアを元に議論する(対立する?)
- 各国の意見の違いを調整しながら交渉用のドラフト(下書き)テキストの形に落とす
- ドラフトテキストを元に本格的に交渉する
- 最終テキストに合意し、採択する

条約AWG 議定書AWG



2009年末コペンハーゲンで合意できる道を残した
作業計画はなんとか出来上がった。





閣僚級会合報告

- 途上国が掲げた国内削減目標
 - メキシコ 2050年50%減
 - 南アフリカ 2020～25年にピークアウト、2050年50%減
 - パプアニューギニア 2020年50%減、2050年カーボンニュートラル
- 先進国:日本、カナダ、オーストラリア中期目標発表なし
 - 会議の進展をさまたげ、何度も化石賞受賞
- 途上国の非難:今起きている温暖化に責任のある先進国が、40年も先の削減目標だけを発表して、現実的な2020年目標を無視しているのは許せない。





全体評価

- 内容には前進なし
- 作業計画は、議論に終始した2008年から、交渉に切り替える2009年の道を確認
- 先進国の消極性
 - アメリカ現政権の存在のなさ: 会議は、オバマ政権発足待ちムード
 - 日本、カナダ、オーストラリアが会議の足を引っ張る
 - 元祖リーダーのEUも、お膝元の域内不協和音で、存在感なし
- 途上国の焦燥感といらだち
 - 適応に必要な資金拡大議論を先送りされた
 - 技術移転、適応、資金メカすべてに先進国の積極性がないことへの不満
 - 次期目標を明らかにしないまま、途上国に削減を迫る先進国への不満

